

第4回 インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション 学生アンケート集計

(「第4回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション学生アンケート」より抜粋)

作成年月日:2006年1月4日

作成者:交渉教育支援センター

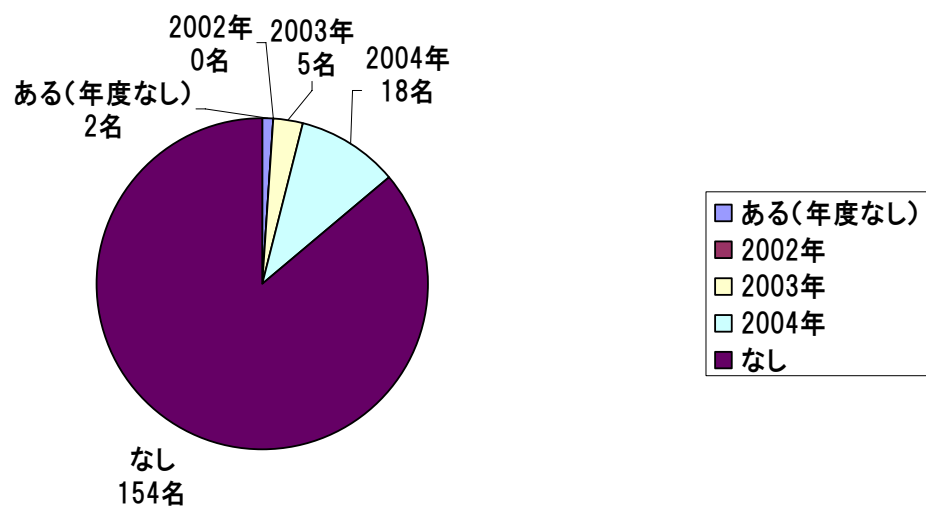
アンケート実施年月日:2005年12月4日

回答枚数:179枚

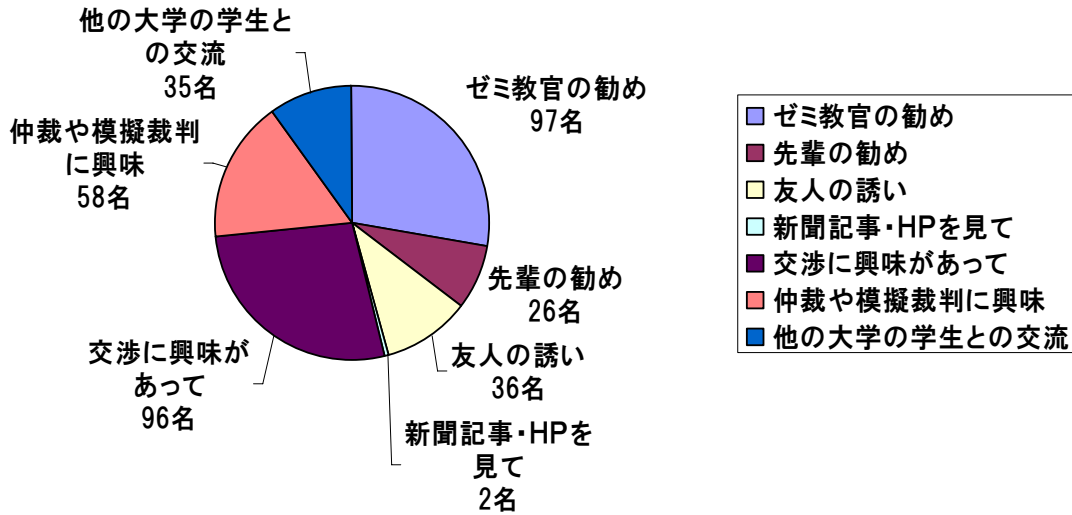
回答対象大学名:(日本語チーム:122名、英語チーム57名)

東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学、北海道大学、名古屋大学、中央大学、同志社大学、早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学、一橋大学、東北大学、オーストラリア国立大学
(14校、約200名)

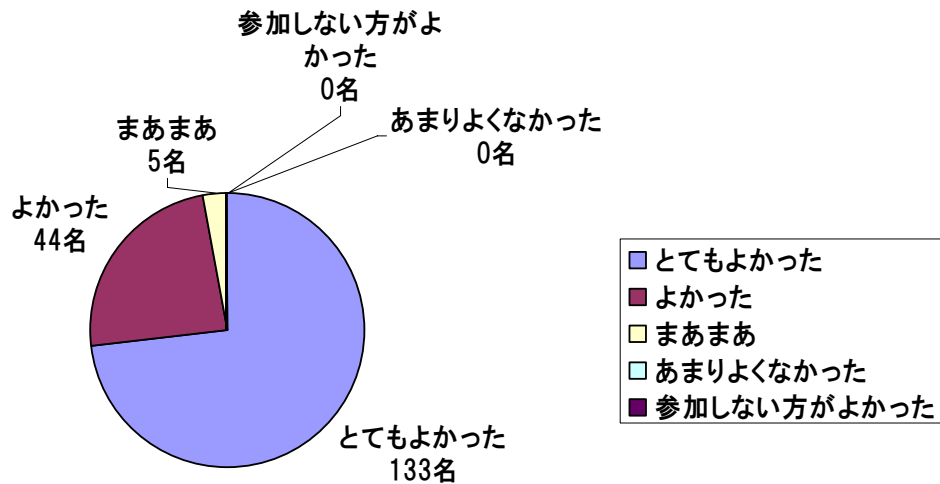
Q1-2. このコンペへの参加経験



Q2. 参加動機：あなたが本コンペティションに参加した動機をお聞かせください。



Q3. 本コンペティションに参加してよかったと思いますか？

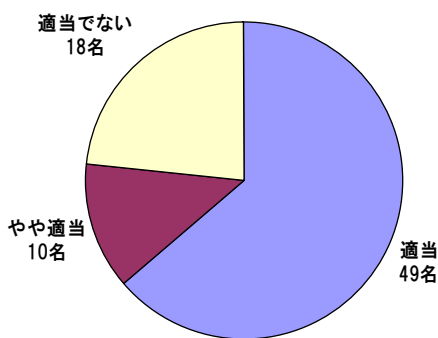


コメント：

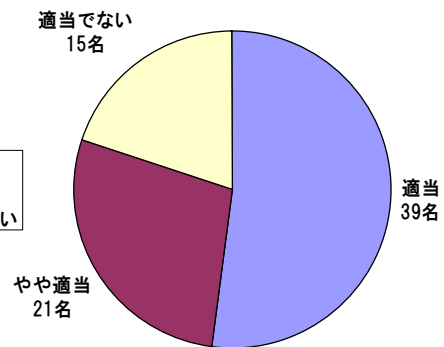
- ・審査員の方がバラエティに富んでいて、コメントが非常に参考になった。
- ・達成感が得られたので、とてもよかった。
- ・論理的に考える力をつけることができた。
- ・他校と対戦することにより、準備段階で見えなかったことも多く発見でき、人を説得させることの難しさを実感することができた。
- ・結束が強まった。
- ・他分野専攻の学生として法律的なものの考え方が身についた。
- ・企業の現場や実務の話が体験して理解できた。

- ・ 模擬仲裁と交渉に関する知識を深めた。
- ・ 他大学（含海外）の友達ができた。
- ・ 現実に近い想定した形での仲裁・交渉ができたから。
- ・ 実務により近い形での弁護士の方々が何をやっておられるかが分かった。
- ・ チームの重要性を理解できた。
- ・ 仲裁で法律の醍醐味を知った。
- ・ 実務家のアドバイスも頂けて参考になった。
- ・ 世間がシビアに回っていることを実感できた。法律の問題は基本的に人間同士の戦いだということを知ることができた。
- ・ 検事、裁判官の方々に直接触れ合え、生身の声を聞くことができとても勉強になった。
- ・ 法律の勉強をしても実践の場が無くては、自分の普段の勉強を活かしたり試したりすることができないので、本コンペティションのような機会があることは非常に有意義だと思います。また他大学の学生と交流できる点も良かった。

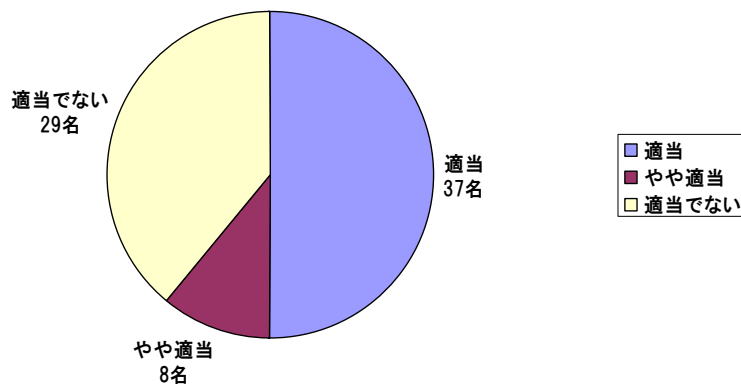
Q4. 課題問題は適切だったと思いますか。①難易度、②事案の内容、③秘密情報についての評価と、ご意見および④改善点をお聞かせ下さい。



①難易度



②事案の内容



③秘密情報

コメント：

- ・ 契約書の抜粋はやめて欲しい。混乱の元です。
- ・ 交渉の問題は去年より、数字等も非常に現実的で、設定も具体的で準備はしやすかったのですが、その分、学生が検討する部分の創造性、自由性には欠けていたように感じました。
- ・ 契約書の英語は、専門的知識がないと全体像がつかめなかった。
- ・ もう少し詳細にして欲しい。
- ・ 問題文・秘密情報などの変更、特に本番直前の変更はなるべく避けて欲しいです。
- ・ ブルー社が床の補修を済ませたことは、秘密情報に書かなくてもよかったはずで、相手側が床補修について知らなかったのが驚きました。

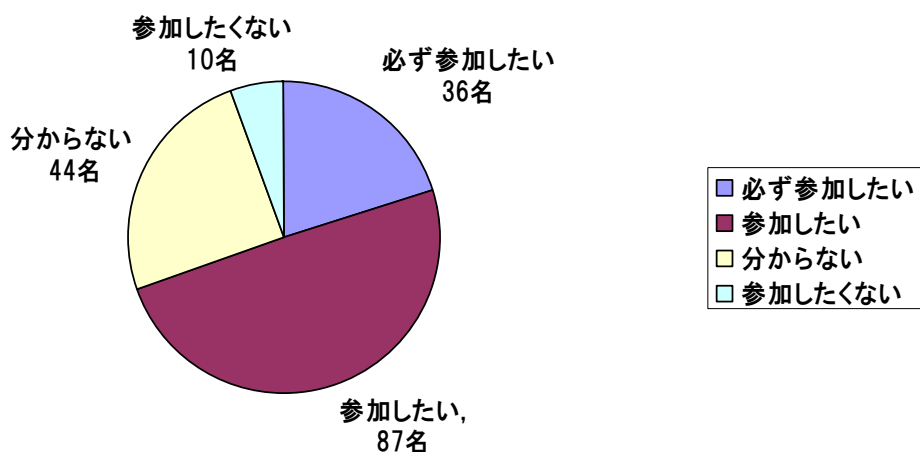
- ・ 問題は適当だった。Newsletter などが出されて、時にアップデートされる情報などもあり、ハードな事前学習が必要とされるものではありませんでしたが、その分しっかりと構成がなされており調べがいがある問題であったと思います。
- ・ 事案の内容が、建設請負・発電所と文系の自分には新鮮で面白かった。
- ・ 秘密情報は、交渉に深みが出て良いと思う。
- ・ とてもよく練られていて、取り組み甲斐があった。事実を解釈するために必要な素材は、問題文中に盛り込まれていた。
- ・ 完成度の高さに驚きました。
- ・ 考えるポイントがどんどん発見できる楽しさがありました。
- ・ 秘密情報は、面白いものだと思う。予想するのは楽しい。

Q6. 審査の仕方や審査項目、審査内容、表彰の方法についてご意見があればお書きください。改善してほしい点がありますか？（審査基準、配点、審査員の数・質などについても含む）

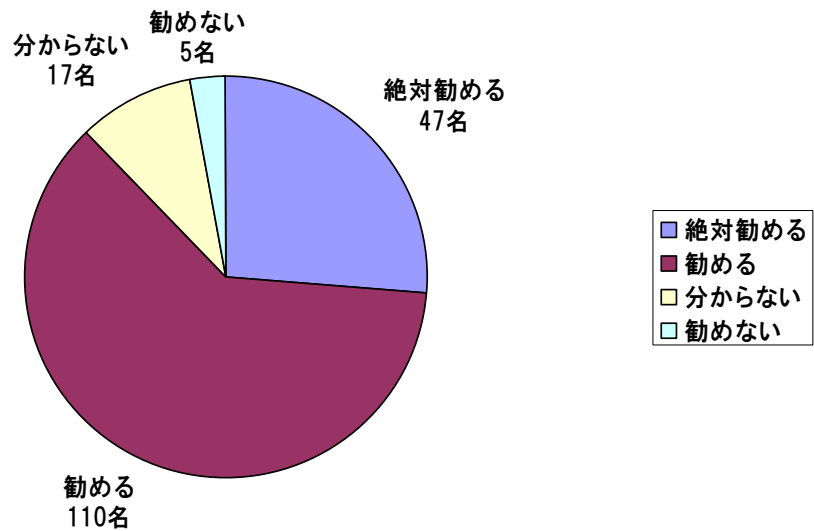
- ・ もう少しそれぞれのチーム及びそのメンバーについて、FEED BACKがあればよい。
- ・ 講評の書面化
- ・ ジャッジ表を匿名でよいので、公開してほしい。
- ・ 各大学の出場チーム数、チームメンバー数の違いは、審査基準に不公平を生じさせる。
- ・ 審査員の質に少々問題があると思う。もう少し争点とすべきところを意識して欲しい。他のチームの話聞いたところ、相当ばらつきがあった印象をうけた。
- ・ 審査員の役割をマニュアル化して欲しい。
- ・ 仲裁人の方の介入がほとんどなく、議論が錯綜した。もう少し介入して頂ければ、やりやすかった。
- ・ 審査員の質を統一して欲しい。
- ・ 仲裁の進め方は、各教室で統一して欲しい。
- ・ 審査に仲裁人の個性が影響していることがある。

- ・自分のチームの得点を教えて欲しい。
- ・審査員の方々と参加者との間で問題の解釈に相違があった点は、何らかの改善が必要。
- ・もう少し講評を聞く時間が確保できれば良い。
- ・審査員との相性により点数できまってしまう点がある。
- ・ターゲットラインの設定の仕方が問題文秘密情報の表現・内容にそったものであることを重く評価して欲しい。交渉の結果報告終了後、相手側の秘密情報を見せてもらったところ、相手が交渉中主張した内容と多くの矛盾があった。問題の表現・内容を正確に理解していない相手と交渉が成立するわけがない。
- ・仲裁廷の介入がかなりあり、思うように主張できなかった。
- ・仲裁官が論点ごとに司会進行役をかえたのが、やりづらかった。
- ・審査基準があいまい。
- ・もっと詳しく評価を聞きたい。
- ・審査員の方も、問題やユニドロワ、準備書面についてもう少し検討して欲しかった。
- ・0B・0Gの方に参加して頂くのは、人の輪が繋がっていくので大変いいと思う。
- ・ユニークな主張を考えついたチームを表彰したら面白いと思う。
- ・審査員の数を2人より、小グループ同士の対戦のほうが、面白いかもしれない。
- ・審査員の間で、評価の統一性を確保して欲しい。仲裁と交渉で講評にかなりの差があった。

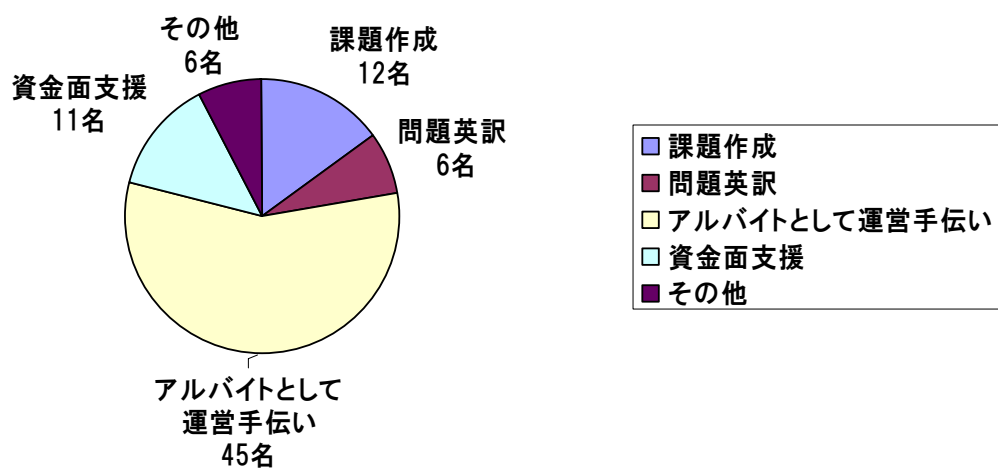
Q7-1. あなたは、可能であれば来年も参加したいと思いますか？



Q7-2. 友人や後輩に参加を勧めますか？



Q8. あなたは、本コンペティションの組織運営等に、将来的に関わっていきたいと考えますか？



Q10. その他、感じたこと、来年以降に向けて改善してほしい点など自由にお書きください。

- ・交渉のみや仲裁のみでの出場も認めて欲しい。
- ・スピーチは、大変興味深い内容ではありましたが、少々長かった気がしました。もう少し短い間であれば、より集中してお話を拝聴できた。

以上